

# 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 2009年 1月 20日

## 1. 概要

実践団体名	ちきゅうぼうさいたい 地球防災隊		
連絡先	代表者：杉田 かなえ 090-1145 - 0593 上記の連絡先に繋がらない場合：河田 のどか 090-6052-1064		
プランタイトル	担い手を増やし、園児への防災教室を開く		
プランの対象者	幼児・保育園児・幼稚園児、 高校生、大学生、教職員・ 保育士等	対象とする 災害種別	地震

### 【プランの目的・ここがポイント！】

目的：防災教育の新たな担い手を増やすこと、園児に楽しく防災を学んでもらうこと

ポイント：防災教育の新たな担い手を増やすため、保育士を目指す学生と交流し、幼児向けの防災教材を作成する。保育を学んでいる学生に、園児に人気がある幼児教材や、防災の要素を取り入れやすい幼児教材を教えてもらう。また幼児向け防災教材を作成するにあたり、どこまでなら園児が理解できるか、どのような動きや道具を取り入れれば、園児の興味をひくことができるかを一緒に考えてもらう。紙芝居、クイズ、歌などの園児が好きなものと防災を組み合わせることにより、幼いころから防災を身近に感じてもらうきっかけとなる。楽しんで学んでもらう工夫をすることで、防災に興味を持ってくれる園児が多くなる。

### 【プランの概要】

- ・幼稚園訪問活動、幼児向け防災教材の作成、防災教室の実施
- ・保育士を目指す学生を対象とした学生セミナーの開催、教材作成
- ・地球防災隊の活動紹介、他団体との連携行事参加

### 【期待される効果・ここがおすすめ！】

保育士を目指す学生と交流し活動することで、防災・保育の知識や情報を共有することができ、幼い子どもにも伝わりやすい防災教材の作成、防災教育の実施が可能となる。実際に使用できる幼児により合った防災教材を一緒に考えることは、防災を学ぶと同時に、幼児向け教材を考えることにもなる。また、学生が保育士になった後にも、自身で作成した防災教材を活用することができ、持続性がある。

防災と幼児教材を繋げることで、園児に防災を身近に感じてもらうことが出来る。園児は幼稚園であったことを家に持ち帰り、家族に話すと考えられる。子どもの口から防災教室の話題が出ることで、家族でも防災について考えたり話し合ってもらうことにより、家庭でも防災意識が高まる。

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 2. プランの年間活動記録

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
2008年 6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災教室実施に向けての幼稚園訪問をスタート</li> <li>・防災教室プログラム検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園訪問</li> <li>・紙芝居の下書き</li> <li>・歌の作成</li> </ul>	
2008年 7月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園訪問</li> <li>・紙芝居の清書</li> </ul>	
2008年 8月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園訪問</li> <li>・防災教室プログラム調整・内容確認(紙芝居修正・ダンス振付け確認・クイズ作成・修了証制作)</li> </ul>	
2008年 9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2009年1月に第2回目の防災教室実施を計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園訪問</li> <li>・絵本の下書き開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災教室の実施</li> <li>・先生との反省会</li> </ul>
2008年 10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞子高校震災メモリアル行事分科会出展を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居の修正</li> <li>・絵本の修正</li> </ul>	
2008年 11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士を目指す学生を対象としたセミナー開催を計画</li> <li>・ひまわりの夢企画とコラボレーション～防災マップ迷路～計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頌栄大学に学生セミナー実施の交渉、学生セミナープログラムの検討</li> <li>・震災メモリアル行事分科会実施内容の検討</li> </ul>	
2008年 12月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園訪問</li> <li>・学生セミナープログラムの確認・準備</li> <li>・防災楽習迷路の図案準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士を目指す学生を対象としたセミナー開催(2回)</li> </ul>
2009年 1月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災教室のプログラム調整・内容の確認(紙芝居の修正・手遊びの振り付け確認・クイズの作成・メダルの制作)</li> <li>・防災マップ図案作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災教室の実施</li> <li>・先生との反省会</li> <li>・舞子高校震災メモリアル行事分科会</li> <li>・ひまわりの夢企画—防災マップ迷路—</li> </ul>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 3. 実践したプランの内容と成果

#### 【実践プログラム①】

タイトル	防災教室
実施月日（曜日）	2008年9月9日（火）
実施場所	園田学園大学附属学が丘幼稚園
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	2×45分
プログラムのカテゴリ、形式	イベント・行事
活動目的	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	地震の時に大切なことを覚えてもらう 防災を身近に感じてもらう
実践方法・進め方 （箇条書き、またはフロー）	<p>1. 歌及びダンス（身体遊戯）</p> <p>目的：地震が起きた場合、頭を守ることを身体で覚えてもらうこと 実践方法：歌詞を書いた模造紙を園児に見せて歌詞の説明を行う。 続いて地球防災隊が歌を歌いながら、ダンスの振付けをする。前で見本を見せながら、園児にも一緒に踊ってもらう。身体を丸めて頭を守る動きは、地震が起きたときに自分で自分の身を守る方法のひとつである。だんごむしに見たてた動きを歌とダンスに取り入れた。</p> <p>2. 紙芝居『ちゅーたとふしぎなメロンパン』</p> <p>目的：地震を知らない子供たちに、地震がどんなものかを知ってもらうこと 地震が起きたときにどのような行動をすれば良いのか。園児が記憶しやすいように大切なポイントを3つ（頭を守る・机の下に隠れる・外に出ない）に絞って紹介する。</p> <p>ストーリー：メロンパンが大好きなねずみの「ちゅーた」。ある日、パンから出て来た妖精に、地震が来ることを知らされます。そのとき、妖精はちゅーたに地震が起きたときに大切な3つのことを教えてくれました。</p> <p>おいしいパンを焼いてくれるおじさんや、町の人を地震の被害から守るために、ちゅーたが大切な3つのことをみんなに伝えて活躍するストーリー</p>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	<p>です。</p> <p>3. クイズ</p> <p>目的：紙芝居の内容、地震のときに大切な3つのことを振り返る</p> <p>内容：ストーリーに関するもの、地震の時の対策などを出題した。紙芝居の内容のものはヒントとして絵を見せた。</p> <p>①ちゅーたが好きなメロンパンはなんでしょう？</p> <p>    答え：メロンパン</p> <p>②妖精が教えてくれた3つの大切なことは？</p> <p>    答え：頭を守る、机の下に隠れる、外に出ない</p> <p>③ちゅーたはおじさんからお礼に何をもらったでしょう？</p> <p>    答え：たくさんのパン</p> <p>④地震はいつ起こるでしょう？</p> <p>    三択問題：朝・夜・いつ起こるかわからない</p> <p>    答え：いつ起こるかわからない</p> <p>4. 終了式</p> <p>目的：防災教室に関連するものを渡し、家に持ち帰ってもらうことにより、家族で防災教室や防災について話をするきっかけ作り。</p> <p>内容：防災教室プログラムと表彰状(地球防災隊隊員証)の配布</p> <p>プログラムには、防災教室のプログラムの内容、歌の歌詞とダンスの振り付け、クイズが書かれている。表彰状は、首からかけられるようにリボンをつけている。表彰状には、地球防災隊の仲間入りだということ、今日防災教室で学んだことを家で家族にも教えてあげてほしいといった内容が書かれている。園児1人1人に配布。</p>
<p><b>準備、使用したもの</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人材</li> <li>・ 道具、材料等</li> </ul>	<p>人材：地球防災隊7名</p> <p>        ボランティア大学生1名</p> <p>道具・材料等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地球防災隊の名札</li> <li>・ 歌の歌詞</li> <li>・ 紙人形・3体</li> <li>・ 紙芝居「ちゅーたとふしぎなメロンパン」</li> <li>・ クイズ4問</li> <li>・ プログラム・表彰状</li> </ul> <p>上記作成にあたり使用したもの</p> <p>(フェルト・文字フェルト・安全ピン・模造紙・画用紙・コピー用紙・印刷用インク・ラミネート・割り箸・カラーペン・リボン・ボンド・のり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動記録用のデジタルカメラ</li> </ul>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カセットデッキ</li> <li>・使用教材保管用ファイル</li> </ul>
<b>参加人数</b>	年長組 74 名 年少・年中組約 70 名 先生 8 名
<b>経費の総額・内訳概要</b>	<p>総額：20433 円</p> <p>内訳：フェルト・文字フェルト代 1365 円          画用紙代 315 円          リボン代 1260 円          紙芝居の印刷・ラミネート代 9137 円          コピー用紙 248 円          資料コピー代 150 円          カセットデッキ代 5980 円          使用教材保管用ファイル代 1890 円          その他(セロハンテープ) 88 円</p>
<b>成果と課題</b>	<p><b>【成果】</b> 1. 防災教室を楽しんでくれたこと          2. 園児に防災について考える機会を作れたこと          3. 先生方にアドバイスをいただいたこと</p> <p>歌及びダンスではだんごむし、紙芝居ではメロンパンという園児にとって馴染みのある言葉を使うことで園児が身近に感じ気持ちが入りやすかったのではないかと思う。また、何度もだんごむしのポーズを繰り返し教えて→聞いて→動かしてということができたので、園児も頭を守るという習慣は少し身についたのではないかと感じた。これを繰り返すと習慣となり、反射的に体が反応するまでになるのではないかと思う。クイズをすることにより、しっかりと覚える意識が芽生え、自分で考えさせる機会を作れたことはよかったと思う。園長先生や保育士の先生方からの具体的なアドバイスが聞けたことは次にも繋がるよい収穫といえる。(アドバイス：ダンスの動きの改善・紙芝居の絵についてなど)</p> <p><b>【課題】</b> 1. 指導力不足          2. 教材の改善</p> <p>合間の時間の使い方が悪く流れをストップさしてしまった。こちらが手間取っていると、園児も不安となり気持ちが切れてしまう。紙芝居の中でわからない言葉を使用してしまった。(いちもくさん)地震のことをもう少し強調してもよかったのではなかったと思う。紙芝居が終わってから、具体的に「何のお話だった??」と聞いて</p>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	<p>園児の反応を見てもよかったのではないかと思う。クイズの時に地震について掘り下げて時間をかけて園児に発言してもらったり、問いかけたりすることも必要だと思う。</p> <p>7名の参加者を有効に使いできるだけ多くの園児が楽しんで参加できるものにできたらと思う。</p>
<b>成果物</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・園児たちが地震についてどの程度知識を持っているのかを知ることができたこと</li><li>・頭を守ることが大切だということを理解してもらえたこと</li><li>・年長組だけでなく、防災教室を見学に来た年少・年中組の園児たちも、地震のときに大切な3つのポイントを覚えていてくれたこと</li><li>・楽しんで防災を学んでもらえたこと</li></ul>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム②】

タイトル	「楽しい遊びと少しの防災を」
実施月日（曜日）	2008年12月12日（金）
実施場所	頌栄短期大学
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	16：20～18：00
プログラムの カテゴリ、形式	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的	遊び・楽しみながらの防災、防災に役立つ資料・材料づくり、防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	保育士を目指す学生に防災を身近に感じてもらう 地球防災隊の活動を知ってもらう 幼児向け防災教材の作成
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	<p>1. プレゼンテーション</p> <p>目的：防災と幼児教育との繋がりを知ってもらうこと 内容：地球防災隊の活動紹介。なぜ保育士が防災を学ぶ必要があるのか、防災とはどういうものなのかを簡単に説明。</p> <p>2. 自己紹介ゲーム</p> <p>目的：コミュニケーションをとること、みんなの名前を覚えること 手順：今朝早く起きた順番に並ぶ。この時、しゃべってはいけない。身振り手振りで相手に朝起きた時間を伝える。その後、順番に自己紹介していく。最初の方は、普通に自分の名前（あだ名）を言う。次の方からは、前の方の名前を言ってから、自分の自己紹介をする。例えば、1番目の人がAだとする。Aが「Aです。」と自己紹介すると、隣にいるBは「Aさんの隣にいるBです。」と自己紹介する。Bの隣にいるCは「Aさんの隣にいるBさんの隣にいるCです。」と自己紹介する。同じ要領で、全員終わるまで自己紹介が続く。初対面でも相手の顔と名前を覚えようという意識が高くなり、また会話をせずに身振り手振りで並ぶことでコミュニケーションをとることができる。</p> <p>3. 伝言ゲーム</p>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

目的：必要な情報を正しく伝える大切さを知ってもらう

手順：2チームに分かれて行き、どちらが早く正確に伝言をすることができるかを競う。各チームは5人で編成。最初の人に1分間で文章を覚えてもらい、最後の人が情報を前のホワイトボードへと書き出す。

### 伝言ゲーム①

かおりちゃんは、お母さんに買い物に行くように頼まれました。買うものは、パン・ハム・卵・レタス・マヨネーズです。それでお母さんは、サンドイッチを作ってくれました。

1回目は、普通の伝言ゲームをしてもらう。

### 伝言の例②

12月12日金曜日に神戸で大きな地震が起こりました。頌栄の学内も強く揺れました。学内にいる人は、全員園庭に逃げなさいと言われていましたが、チャペルが燃えているので、その前を通って逃げることはできません。そして、チャペルの中には男性1人、女性1人が取り残されています。消防に連絡しましたが、消防車が来るまでに1時間ぐらいかかるそうです。その間に、先生たちが火を消しに行きました。

2回目は災害にまつわる文章を伝言ゲームに用いる。今回は全文を暗記してもらうのではなく、必要な情報だけを相手に伝えてもらう

### 4. 紙芝居紹介「ちゅーたとふしぎなメロンパン」

目的：幼児教材と防災が結びついている教材を知ってもらう

手順：地球防災隊が作成した紙芝居を紹介する

### 5. 解説

目的：2～4のプログラムと防災とを少し繋げて話をする。

内容：

2の自己紹介ゲームでは、コミュニケーションをとることの大切さを説明。震災時、避難所では家族以外の人と生活を共にすることとなる。その時、他人とコミュニケーションをとることが必要だということを伝えた。

3の伝言ゲームでは、正確な情報を伝えることの重要性を説明。災害時は情報を得る手段や情報を伝える手段が十分にあるとは限らない。人の口から口へと情報が伝えられていくこともある。その時、正しい情報を相手に伝えるためにも、必要な情報を記憶し、正しく相手に伝えることの大切さを伝えた。

4の紙芝居では、防災は何とでも繋げることが可能だということの説明。防災というと難しく捕らえられることが多いが、紙芝居な

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	<p>どに取り入れることで楽しく学んでもらうことができると伝えた。</p> <p>6. 教材作成</p> <p>目的：保育士を目指す学生と共同で幼児向け防災教材を作成する</p> <p>手順：阪神・淡路大震災当時から、非常持ち出し袋を普段から準備しておく必要性が指摘された。しかし、阪神・淡路大震災後の記録から、震災当時、大人と子供が生活必需品以外で欲しいと感じたものに違いがあった。子どもたちが欲しがった物の例として、絵本・落書き帳・ペン・ブロックなどがある。保育を学ぶ学生に、子どもが好きなものを考えてもらい、子ども用の非常持ち出し袋の中身を作成する。(くるくるシアター・絵パズル・見開き絵本)</p> <p>7. アンケート配布</p> <p>目的：今まで防災に興味がなかった学生が、今回のセミナーを通して防災についてどう思ったのかを知る。</p> <p>○アンケートの内容はシンプルで答えやすいものにした。</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 防災に対してどのようなイメージを持っていましたか</li> <li>② どうしてセミナーに参加しようと思いましたか</li> <li>③ セミナーはどうでしたか</li> <li>④ セミナー時間はどうでしたか</li> <li>⑤ セミナーの内容はいかがでしたか</li> <li>⑥ 防災のイメージが変わりましたか</li> <li>⑦ またセミナーがある時、参加しようと思いますか</li> <li>⑧ セミナーでやってほしいことはありますか</li> <li>⑨ オススメの幼稚園教材があれば教えてください</li> <li>⑩ 感想</li> </ol>
<p><b>準備、使用したもの</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人材</li> <li>・ 道具、材料等</li> </ul>	<p>人材：地球防災隊5名</p> <p>道具・材料等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PC(プレゼンテーション時に使用)</li> <li>・ プレゼンテーションのレジュメ</li> <li>・ 伝言ゲーム用の資料(原稿・伝言用の筒)</li> <li>・ 紙芝居「ちゅーたとふしぎなメロンパン」</li> <li>・ 教材作成用の道具(画用紙・色画用紙・セロハンテープ・両面テープ・はさみ・マジック・割り箸・のり・ホワイトボード)</li> <li>・ 活動記録用のデジタルカメラ</li> </ul>
<p><b>参加人数</b></p>	<p>頌栄短期大学1年生7名</p>
<p><b>経費の総額・内訳概要</b></p>	<p>総額：2757円</p>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	<p>内訳：画用紙・色画用紙 1434 円 セロハンテープ・両面テープ 525 円 はさみ×2本 798 円</p>
<p style="text-align: center;"><b>成果と課題</b></p>	<p><b>【成果】</b> 1. 少人数で楽しんでもらえたこと 2. 防災教材を作成できたこと 3. 防災教材の作成、地球防災隊との交流などを続けたいという気持ちを持ってもらえたこと 4. アンケート調査を実施したことにより、学生の意見が聞けたこと</p> <p>今回のセミナーは、頌栄短期大学に場所を提供していただいた。保育士を目指す学生が通う大学である。地球防災隊のメンバー2人が在籍しており、セミナーに参加してくれた学生は地球防災隊のメンバーの友人である。学生の9割は、防災に興味があったのではなく、友達に誘われたことがきっかけでこのセミナーに参加してくれた。彼女たちの最初の防災の印象は、「難しい」「避難訓練のこと」「わからない」というものである。また、同じ質問で「防災と聞くと震災を思い出す」という回答もあった。このセミナーに防災に興味があって参加してくれた学生は7人中1人である。</p> <p>防災に興味がなかった彼女たちだが、セミナー参加後のアンケートでは、「楽しかった」「またセミナーに参加したい」返答してくれた。全員が防災に対する印象が変わったと記している。災害が起こったときにどうしたら良いかを詳しく知りたい、保育で使える防災の教材作りをもっとしたいという意見も出た。災害や防災に興味をもってもらえたのかもしれない。また、防災と幼児教材を繋げて考えてもらえるようになったのだと感じる。</p> <p>防災教材作成においては、最初は非常持ち出し袋がどのようなものかわからず、戸惑っていたようだ。しかし、私たちが説明すると、今までに作ったことのある幼児向け教材と組み合わせながら、子供向け非常持ち出し袋にあったら良いものを考えてくれた。時間が足りず、完成しなかったものにおいては、家に持ち帰って作成したいと申し出てくれた学生も多数いた。</p> <p>始めは防災に対して難しい、わからないなどというイメージを持っていた彼女たち。しかし、自分たちの得意分野である幼児教材と結びつけることで、防災を少し身近に感じてもらうきっかけになったように思う。</p> <p><b>【課題】</b> 1. 地球防災隊と学生がばらばらになって作業をしていた 2. 幼児向け防災教材を作成する場合のヒントの出し方</p>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	<p style="text-align: center;">3. プログラムの時間配分</p> <p>幼児向け防災教材の作成をする時、教室の机が並列で並んでの作業だったので、保育士を目指す学生と地球防災隊のメンバーが分かれてしまった。</p> <p>幼児教材と防災とを繋げた教材作りの上手なヒントの出し方が課題である。非常持ち出し袋を例に挙げて作業を始めてもらおうとした際、「わからない」と一瞬保育士を目指す学生の手が止まってしまった。防災を学ぶ私たちにとって、非常持ち出し袋は知っていて当たり前のものであるが、防災を学んでいない学生にとって必ずしもそうではないのだということを実感した。</p> <p>いろいろなプログラムを盛り込んでセミナーを進めたが、一つ一つのプログラムで使える時間が少なくなってしまい、少し慌ただしくなってしまった。時間配分やプログラム構成などを調整する必要があるように感じた。</p>
<b>成果物</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育士を目指す学生との繋がりができたこと</li> <li>・ 幼児向け教材について教えてもらえたこと</li> <li>・ 防災の楽しい要素を学生に知ってもらえたこと</li> <li>・ 防災に興味をもってくれたこと</li> <li>・ 防災セミナーだけでなく、活動に参加したいという意欲を持ってもらえたこと</li> </ul>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム③】

タイトル	「楽しい遊びと少しの防災を」
実施月日（曜日）	2008年12月19日(金)
実施場所	頌栄短期大学施設内の頌栄幼稚園の一室
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	16：20～18：00
プログラムの カテゴリ、形式	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的	遊び・楽しみながらの防災 防災に関する知識を深める 防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	防災に興味をもち身近に感じてもらう 教材の作成
実践方法・進め方 (箇条書き、または フロー)	<p>1. 自己紹介ゲーム</p> <p>目的：コミュニケーションをとること、みんなの名前を覚えること</p> <p>手順：</p> <p>①全員ばらばらに広がる。リーダーの合図で一斉に動き出す。目が合った人と右手で握手をして「こんにちは」と言った後、次は左手で握手をして「さようなら」と言って手を離す。そして、また次に目が合った人と同じ動作を繰り返す。これを1分間続ける。</p> <p>②順番に自己紹介していく。最初の人、自分の名前(あだ名)を言う。次の人からは、前の人の名前を言ってから、自分の自己紹介をする。例えば、1番目の人がAだとする。Aが「Aです。」と自己紹介すると、隣にいるBは「Aさんの隣にいるBです。」と自己紹介する。Bの隣にいるCは「Aさんの隣にいるBさんの隣にいるCです。」と自己紹介する。同じ要領で、全員終わるまで自己紹介が続く。</p> <p>③自分の好きなものと名前自己紹介していく。例えば、1番目の人が「メロンパンが好きな〇〇 花子です」と自己紹介をする。次の人は花子の「こ」からスタートし、「小鳥が苦手な●● あやかです」という風に順番に続いていく。</p> <p>相手の顔と名前を覚えようという意識が高くなり、ゲーム感覚で楽</p>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

しめるのでコミュニケーションをとることができる。

### 2. クロスロード

目的：防災のゲームの紹介。ゲームを通し、自分をいろいろな立場に置き換え、災害時にどうするかを想像して考えてもらうこと。

手順：地球防災隊と学生の混合グループを2つ作る。各グループに出される問題は同じだが、YES・NOを出してもらい、それぞれのグループの中で意見を出して議論してもらう。その後、お互いのグループで出た意見を紹介し合う。

クロスロードの内容

①あなたは被災者です。地震で自宅は半壊状態。家族揃って避難所へ。ただ日頃の備えが幸いし、非常持ち出し袋には水も食糧も3日分はあります。一方、避難所には水も食糧もたない家族が多数。その前で非常持ち出し袋をあける？あけない？

②あなたは市民です。大きな地震のため、避難所（小学校の体育館）に避難しなければなりません。しかし、家族同然の飼い犬もも（ゴールデンレトリバー、メス3歳）がいます。一緒に連れて行く？置いていく？

③あなたは母親です。大地震後、小学校へ行っている我が子を迎えに行くが、途中で人が生き埋めになっているのを発見。他に人はいません。しかし我が子も気になる。まず目の前の人を助ける？助けない？

### 3. 紙芝居紹介「ぼうさいマン」

目的：幼児教材と防災が結びついている教材を知ってもらう

手順：神戸学院大学防災・社会貢献ユニットの学生が幼稚園の指導要領に基づき作成したものの紙芝居を紹介する

### 4. 教材作成のアドバイス(紙芝居「こめたろう」)

目的：新しい紙芝居を作成するときのアドバイスをすること

手順：第1回目の防災教室時に使用した「ちゅーたとふしぎなメロンパン」の作成にあたり、保育士さんからアドバイスを受けた内容を紹介。第2回目の防災教室時に、保育士を目指す学生を中心に作成してもらった「こめたろう」を完成に向けて、絵の描き方や色の塗り方などを確認しながらアドバイスを行う。

### 5. 教材作成・座談会

目的：保育士を目指す学生と共同で幼児向け防災教材を作成する  
学生との親交を深める

手順：地球防災隊と学生が混じった状態で座り、前回のセミナーで作っていた教材作りの続きを行った。また、防災の要素を取り入れ

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	<p>た手遊びが作れないかと学生に相談を持ちかけ、手遊びを数種類教えてもらった。どうしたら、防災と手遊びを繋げることができるか、どのような動きにしたら、防災の伝えたい面を手遊びに取り入れることができるかなどを話し合い、共同で手遊びを考えた。</p> <p>6. アンケート配布</p> <p>目的：今回のセミナーを通して防災についてどう思ったのかを知る 楽しかったプログラムを聞き、今まで防災に興味を持っていなかった学生が、どのようなプログラムに関心を抱くかを知る</p> <p>○アンケートの内容はシンプルで答えやすいものにした。</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 防災に対してどのようなイメージを持っていましたか</li> <li>② どうしてセミナーに参加しようと思いましたか (①と②は初参加の学生のみ回答)</li> <li>③ セミナーはどうでしたか</li> <li>④ ③で“楽しかった”と答えた学生のみお答えください。どのプログラムが楽しかったですか ・自己紹介ゲーム ・クロスロード ・紙芝居 ・教材作りと座談会</li> <li>⑤ セミナー時間はどうでしたか</li> <li>⑥ セミナーの内容はいかがでしたか</li> <li>⑦ 防災のイメージが変わりましたか</li> <li>⑧ またセミナーがある時、参加しようと思いませんか</li> <li>⑨ セミナーでやってほしいことはありますか</li> <li>⑩ 今迄に作って楽しかった幼稚園教材があれば教えてください</li> <li>⑪ 感想</li> </ol>
<p><b>準備、使用したもの</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材</li> <li>・道具、材料等</li> </ul>	<p>人材：地球防災隊5名</p> <p>道具、材料等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスロード3問、YES・NOカード</li> <li>・紙芝居「ぼうさいマン」(神戸学院大学防災・社会貢献ユニットの学生が幼稚園の指導要領に基づき作成したもの)</li> <li>・教材作成用の道具(画用紙・色画用紙・セロハンテープ・両面テープ・はさみ・マジック・割り箸・黒板)</li> <li>・活動記録用のデジタルカメラ</li> </ul>
<p><b>参加人数</b></p>	<p>頌栄短期大学1年生6名</p>
<p><b>経費の総額・内訳概要</b></p>	<p>12月12日に開催した学生セミナーの際に準備した材料の残りを使用したため経費は掛かっていない</p>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 成果と課題

- 【成果】
1. 学生が意見をたくさん出してくれたこと
  2. 前回よりも学生との距離が近い交流ができたこと
  3. 幼児教材と防災を繋げて考えられるようになったこと
  4. 学生から幼児向け教材(手遊び)を教えてもらえたこと
  5. 防災を楽しんでくれたこと
  6. 保育と防災を合わせた教材を作成できたこと

6人中5人の学生が先週に引き続きの参加であったため、打ち解けた感じでセミナーを実施することができた。クロスロードの問題が難しいかなと不安を抱いていたが、それぞれ自分の意見をしっかりとってくれた。災害時において、自分がどういった状況に置かれているかを想像して意見することはおもしろいと感じてもらえたようである。災害の時は、いろいろな事態が予想されることを知ってもらえたように思う。セミナー終了後のアンケートでも、楽しかったプログラムで“クロスロード”と答える学生が多かった。自分と違う意見が聞けたことや、同じ意見でも、違う視点から物事を見ている答えを聞き、勉強になった。いろいろな考えがあるのだということを知り、視野が広がったと答えてくれた。

「手遊びを教えてほしい」とこちらが要望すると、すぐに学生は歌を歌いながら手を動かす。さすが保育士を目指す学生だと思った。それぞれに好みの手遊びがあるらしく、いくつもの手遊びを紹介してくれた。「手遊びに防災を取り入れたい」と言うと、すぐに自分たちが知っている手遊びにどうしたら防災を取り入れることができるかを考えてくれた。みんなで様々な意見を出し合い、少しずつ形になっていった。合間に私たちが、地震・火事・津波などの災害時に大切なことを意見する。このことでも、学生に災害時対応をほんの少し紹介できるきっかけになったように思う。時間の関係で手遊びは完成できなかったのだが、みんなで話し合いながら教材を作成することに学生もおもしろさを感じてくれたようである。このことから、前回のセミナーよりも意見が言いやすい環境が作れたように思う。手遊びは、今後完成に向けて取り組んでいきたい。

- 【課題】
1. 初めて参加した学生に、前回のセミナー内容を事前に説明できていなかったこと
  2. プログラムの時間配分

初めて参加した学生に対し、前回のセミナーの内容、地球防災隊の活動紹介などを十分に説明できていなかったことが反省点である。セミナーに参加する学生全員が同じスタートラインであれば、初めて参加する学生も最初から溶け込みやすい環境になったのでは

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	<p>ないだろうか。</p> <p>また、最後の教材作りの時間があまりとれず、手遊びを完成できなかったことも残念であった。盛り上がってきたところで話を中断する形になってしまった。最初の自己紹介の時間をもう少し短縮すべきだったのかもしれない。前回に引き続き、今回も幼児向け防災教材の作成をしてもらったのだが、完成した教材をみんなに発表してもらう時間を設けることができなかつたのも反省点である。学生が意見しやすい環境づくりができたように思うのだが、時間配分のミスにより、その環境を十分に活かすことができなかつた。時間調整を行い、学生から幼児向け教材について教えてもらう時間や、教材作成や座談会にもう少し時間をとることができれば、より深い交流ができたのかもしれない。</p>
<p><b>成果物</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も学生と交流しながら防災教材作成が行える関係作りができたこと</li> <li>・ 学生が防災と保育を自然と繋げて考えられるようになったこと</li> <li>・ 保育の知識を活かした防災教材に学生が興味を持ってくれたこと</li> </ul>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム④】

タイトル	防災教室
実施月日（曜日）	2009年1月13日（火）
実施場所	園田学園大学附属学が丘幼稚園
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	2×45分
プログラムの カテゴリ、形式	イベント・行事
活動目的	遊び・楽しみながらの防災 防災に関する知識を深める 防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	事実に基づいた話や楽しめる教材によって防災を身近に感じてもらう
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	<p>1. 自己紹介、前回の振り返り 目的：地球防災隊のこと、前回実施した防災教室の内容を覚えているかの確認 内容：地震のときに大切なことはなんでしょう？、だんごむしのポーズを覚えてますか？などと第1回目の防災教室の内容を振り返り、防災教室の導入とした。前回登場したキャラクターを紙人形として登場させて、会話形式で行った。</p> <p>2. 手遊び 目的：地震が起きたときに頭を守るポーズを手遊びで覚えてもらう 手順：第1回目の防災教室の歌とダンスの歌詞を少し取り入れ、紙芝居などに登場させたキャラクターを用いて、ストーリー形式の手遊びを実施した。歌詞を書いた模造紙を広げて、園児と一緒に歌詞を声に出して読む。最初に地球防災隊が見本を見せてから、その後園児にも一緒にやってもらう。</p> <p>3. 紙芝居『こめたろう』 目的：人と人との助け合いの大切さを知ってもらう 地震がもたらすものは恐怖や悲しみだけではなく、ひとのやさしい気持ちや助け合いの気持ちもうまれるということを知</p>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

ってもらおう

地震後のまちの様子も表現することで地震が起きたときどのようになるのかを知ってもらおう

内容：阪神・淡路大震災のときに避難所に届いたおにぎりのエピソードを参考にして作成した紙芝居

ストーリー：ある町で地震が発生します。おにぎり屋さんのおじさんとおばさんは、隣町が地震によって大きな被害を受けたことをニュースで知ります。何かできることはないか…と考えたおじさんとおばさんは、避難所へおにぎりを届けることにしました。たくさん握ったおにぎりを町中の避難所へ配るうちに、おにぎりは冷たくなってしまいます。冷たくなったおにぎりを食べた子どもは悲しそうな顔をします。しかし、このおにぎりはおじさんとおばさんの優しい気持ちで一生懸命つくられたものであるとお母さんに教えてもらい、ありがとうと笑顔でおにぎりを食べるというお話です。

#### 4. クイズ

目的：紙芝居の内容を振り返る

内容：ストーリーに関するもの、地震の時に町の中はどのようになっていたかなどを出題した。紙芝居の内容のものはヒントとして絵を見せた。解説時に補足説明を行った。

①おにぎりの具は何がありましたか？

答え：うめぼし・こんぶ・たらこ・しゃけ

②避難とはどういう意味でしょう？

答え：安全な場所へ避難すること

③地震が起こったときに、まちはどうなっていましたか？

答え：道がでこぼこになる

木が倒れる

家が倒れる

地面にヒビが入る

信号が消える

火事が起こる

④おじさんとおばさんはどういう気持ちを込めておにぎりを作ったでしょう？

答え：優しい気持ち

力になりたいという気持ち など

⑤おにぎりを届けた場所はどこでしょう？

答え：公園、幼稚園、病院、小学校、公民館

⑥おじさんとおばさんがおにぎりを届けに行ったまちの名前は何で

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	<p>しょう？          答え：コロリン町</p> <p>5. 修了式</p> <p>目的：防災教室に関連するものを渡し、家に持ち帰ってもらうことにより、家族で防災教室や防災について話をするきっかけ作り。</p> <p>内容：防災教室で実施した手遊びの紙とメダルの配布</p> <p>手遊びの紙には歌詞と手遊びの振付けが絵で描かれている。メダルは、首からかけられるようにリボンをつけている。メダルには、今日はありがとう、また遊ぼうなどのメッセージと同時に、今日防災教室で学んだことを家で家族にも教えてあげてほしいといった内容が書かれている。園児1人1人に配布。</p>
<p><b>準備、使用したもの</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人材</li> <li>・ 道具、材料等</li> </ul>	<p>人材：地球防災隊4名</p> <p>道具、材料等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地球防災隊の名札</li> <li>・ 手遊びの歌詞</li> <li>・ 紙人形・3体</li> <li>・ 紙芝居「こめたろう」</li> <li>・ クイズ6問</li> <li>・ くるくるシアター</li> <li>・ 手遊びの紙・メダル</li> </ul> <p>上記作成にあたり使用したもの          (フェルト・文字フェルト・安全ピン・模造紙・画用紙・コピー用紙・印刷用インク・紙芝居用スケッチブック・割り箸・カラーペン・リボン・ボンド・のり・両面テープ・セロハンテープ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動記録用のデジタルカメラ</li> <li>・ 使用教材保管用ファイル</li> </ul>
<p><b>参加人数</b></p>	<p>年長組 73名 先生4人</p>
<p><b>経費の総額・内訳概要</b></p>	<p>総額：7719円</p> <p>内訳：紙芝居印刷代 3107円</p> <p style="padding-left: 20px;">手遊び資料コピー代 400円</p> <p style="padding-left: 20px;">画用紙代 2012円</p> <p style="padding-left: 20px;">リボン代 720円</p> <p style="padding-left: 20px;">スケッチブック代 1134円</p> <p style="padding-left: 20px;">その他(のり) 346円</p>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 成果と課題

- 【成果】
1. 防災教室に積極的に参加し、楽しんでくれたこと
  2. 保育士を目指している学生のアイデアを取り入れることができたこと
  3. 前回から発展した内容が行えたこと
  4. 先生方にアドバイスをいただけたこと

全体的な流れとしては、体を動かさず手遊び、内容を受け止める紙芝居、自分の考えを表現するクイズの構成で行い、最後に手遊びのカードを一人ずつに渡すことで家でも幼稚園でも持続的に出来るようにした。前回の防災教室の振り返りの時には、手で頭を守るだんごむしのポーズや紙芝居の3つのポイントの頭を守る、机の下に隠れる、外に出ないということも多くの子が覚えていた。今回の防災教室でもだんごむしのポーズは手遊びに取り入れたため、園児も知っていることが入っていたので実施しやすいようであった。

保育士を目指す学生セミナーで学生からのアイデアの手遊びやぐるぐるシアターなどの幼児向け教材を取り入れることができ、保育士を目指す学生との情報交換の成果を出すことが出来た。

紙芝居では震災時の助け合いや優しい気持ちをテーマにし、前回より少し踏み込んだ内容を行うことができた。紙芝居終了後、一人の男の子が、「お母さんが地震のとき避難所でおにぎりをもらったって言ってた」と話してくれた。阪神・淡路大震災のお母さんの話と、今回の紙芝居の内容とを重ねて捉えてもらえたようである。

- 【課題】
1. 指導力不足
  2. 教材作成前の調査不足

一つ一つのプログラムの繋ぎで間ができたり、間延びしてしまうときがあり、園児の集中力を途切れさせてしまう場面があった。クイズや紙芝居の間に簡単な手遊びをいれるなどして、園児に集中力を持続してもらえるような工夫が必要である。また、園児の発言で地震や防災など関連した内容を拾い、話を広げたり他の園児にも問いかけたりするなどして、意見の共有をすべきであった。手遊びは具体的に教えすぎない方がよいらしい。それにより、園児たちはしっかり覚えよう一生懸命になる。同じ動作を何回か繰り返すときには、スピードを早くする、男の子と女の子で順番に行うなど、少しパターンを変える工夫が必要である。

紙人形のキャラクターを有効に使用し園児たちを引き付ける演出を行うために、キャラクターになりきることが必要である。紙人形と話す人間がバラバラだと園児が混乱する可能性がある。

クイズの解答の説明不足や紙芝居の台が低かったなどはもっと園

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	<p>児の目線になって想定しなければならなかったと感じた。</p> <p>教材作成前にどのような防災教材が幼稚園で行われているかなど詳しく調査をする必要がある。そこからどれぐらい園児が理解できるのかなど推測が可能になるかもしれない。</p>
<p><b>成果物</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児に楽しんで防災を学んでもらえた</li> <li>・前回の防災教室の復習を入れ、今回の防災教室にも前回と似た内容を盛り込むことで、より強く記憶してもらうことができた(だんごむしのポーズなど)</li> <li>・「こめたろう」のストーリーを理解してもらえた</li> <li>・紙芝居を通して、地震時に街中がどのようなになるかを知ってもらえた</li> </ul>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム⑤】

タイトル	地球防災隊の活動報告
実施月日（曜日）	2009年1月16日（金）
実施場所	兵庫県立舞子高等学校 4階講義室
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	2×1時間
プログラムのカテゴリ、形式	イベント・行事
活動目的	地球防災隊の活動紹介
達成目標	地球防災隊の活動を知ってもらう
実践方法・進め方 （箇条書き、またはフロー）	<p>1. 自己紹介</p> <p>2. パワーポイントを使って地球防災隊の活動報告 目的：地球防災隊の活動目的・活動内容を知ってもらう</p> <p>3. 紙芝居紹介『こめたろう』『ちゅーたとふしぎなメロンパン』 目的：地球防災隊が作成した幼児向け教材を紹介する</p> <p>4. 頌栄短期大学の学生が作った保育教材紹介</p> <p>5. クロスロード 目的：防災のゲームの紹介。ゲームを通し、自分をいろいろな立場に置き換え、災害時にどうするかを想像して考えてもらうこと。 4～8人のグループに分かれて座ってもらう。それぞれのグループの中でYES、NOそれぞれの意見を話し合う。</p> <p>○あなたは被災者です。地震で自宅は半壊状態。家族揃って避難所へ。ただ日頃の備えが幸いし、非常持ち出し袋には水も食糧も3日分はあります。一方、避難所には水も食糧ももたない家族が多数。その前で非常持ち出し袋をあける？あけない？</p> <p>○あなたは市民です。大きな地震のため、避難所（小学校の体育館）に避難しなければなりません。しかし、家族同然の飼い犬もも（ゴールデンレトリバー、メス3歳）がいます。一緒に連れて行く？置いていく？</p> <p>○あなたは受験生です。避難所では人手が足りず、仕事を手伝う毎</p>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	<p>日。若くて体力があるととても感謝される。しかし、勉強は手につかず、このままでは合格できないかも知れない。避難所の手伝いを止めて勉強に専念する？手伝いを続ける？</p> <p>6. まとめ</p>
<p><b>準備、使用したもの</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人材</li> <li>・ 道具、材料等</li> </ul>	<p>人材：地球防災隊5名</p> <p>道具・材料等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PC(プレゼンテーション時に使用)</li> <li>・ 紙芝居『こめたろう』『ちゅーたとふしぎなメロンパン』</li> <li>・ 活動記録用のデジタルカメラ</li> <li>・ クロスロード</li> <li>・ 保育教材</li> </ul>
<p><b>参加人数</b></p>	<p>兵庫県立舞子高等学校高校生：約80名</p> <p>分科会一般参加者：約10名</p>
<p><b>経費の総額・内訳概要</b></p>	
<p><b>成果と課題</b></p>	<p><b>【成果】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地球防災隊の活動を知ってもらえた</li> <li>2. 紙芝居を紹介できた</li> <li>3. 防災教材クロスロードを通して自分ならどうするかを考えてもらうことが出来た。</li> <li>4. 保育士を目指す学生が作成した教材を紹介できた</li> </ol> <p>熱心にメモを取りながら話を聞いてくれた学生がいた。地球防災の活動紹介をすることで、興味を持ってもらえたように感じる。時間の都合で紙芝居の『ちゅーたとふしぎなメロンパン』はあらすじのみを紹介し、『こめたろう』は読み聞かせを行った。どちらの紙芝居を見たいかという質問に対し、手をあげて答えてくれる学生もおり、関心を持ってストーリーに耳を傾けてくれたように思う。また、保育士を目指す学生が作成した教材を用いて簡単なクイズをしたり、クロスロードゲームをしたりする中で、学生の反応や意見をすることもできた。</p> <p><b>【課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 防災に興味がない学生の関心を十分にひくことができなかった</li> <li>2. 紙芝居を1つしか発表できなかった。</li> </ol> <p>保育にも防災にも興味がない学生は退屈な様子であった。クイズやクロスロードを実施する中で、学生に直接意見を求めるようにし</p>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	<p>たが、関心を持ってもらえるまでに至らなかった学生がほとんどであった。そのような学生の関心をひくための工夫が必要であると感じた。今回だけでなく、今までもクロスロードを用いて学生に災害時や防災について考えてもらう時間を設けていた。クロスロードのような考えるきっかけとなるゲームを自分たちで作成できるようにしたいと思う。</p>
<b>成果物</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・地球防災隊の活動を紹介したことで、興味をもってくれた学生がいたこと</li><li>・防災と触れ合うきっかけづくりになった</li></ul>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム⑥】

タイトル	防災楽習迷路 ―防災マップをつくろう―
実施月日（曜日）	2009年1月17日（土）
実施場所	人と防災未来センター なぎさ公園
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	1人当たりの所要時間 15分 (午前10時～午後3時まで)
プログラムのカテゴリ、形式	イベント・行事
活動目的	遊び・楽しみながら防災
達成目標	防災楽習迷路の図案提供
実践方法・進め方 (箇条書き、またはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「防災マップを作ろう！」というテーマで、迷路を1つの町と仮定して、危険物や災害時に役立つものを探しに行くもの</li> <li>● 参加者は、図面化された迷路に見つけたものの名前や記号を記して、最終的に情報をどれだけ収集できたかを確認</li> <li>● 迷路内に配置された情報の作成を実施</li> <li>● 情報には、①名前・②当該対象の写真・③地図記号もしくは記号を掲載使用（警察署や消防署、公衆電話、コンビニ等）</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1：迷路の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2：幅広い年齢層が参加</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	写真3：ひまわりおじさんと地球防災隊のメンバー
<b>準備、使用したもの</b> ・人材 ・道具、材料等	人材：NPO法人ひまわりの夢企画 兵庫県立舞子高等学校環境防災科 地球防災隊 道具：迷路、マップ情報（地球防災隊作成）
<b>参加人数</b>	約 250 名
<b>経費の総額・内訳概要</b>	
<b>成果と課題</b>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 大人だけでも思った以上に、全ての情報を収集するのに時間がかかっていた。（平均 10~15 分）真剣に取り組んでいた。</li> <li>● 参加者は幅広い年齢層で、家族連れでも参加していた。親と子供が協力して作り上げる光景がよく見られた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケートには「内容が少し難しい」というものもあった。対象年齢を高く設定していたが、家族連れで来た子供の年齢が少し低かった。</li> <li>● 情報の提示の仕方が分かりにくかったのか？漢字にふりがなをつけたりするといった工夫が必要なのではなかったか。</li> </ul>
<b>成果物</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他団体と連携して行事を行うことができた</li> <li>・他の団体の活動を知ることができた</li> <li>・防災学習迷路という題材を使って学ぶ防災から、幅広い年齢層に受け入れられる防災教材を知ることができた。また、その教材を体験した人々から、体験した意見を聞くことができた</li> </ul>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 4. 苦勞した点・工夫した点

#### プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点

##### ●苦勞した点

これまでに幼稚園での保育の活動を行った経験がほとんどなく、何から始めればいいのか知らなかった。そのため、年間を通しての具体的なスケジュールなどを詳しく決めることが困難な状態にあった。

チャレンジプランをきっかけとなって設立された団体であったため、幼稚園や学生セミナー、防災楽習迷路など、他団体と連絡を取り合うのに個人の携帯電話を利用した。学生のみで運営している団体であるため、打ち合わせの電話があっても、授業中は電話を取ることができず、連絡のすれ違いが何度かあった。

##### ●工夫した点

園児が理解しやすい防災教材を作成するためには、私たち自身も防災知識を学ぶ必要があると考えた。より充実した教材を作成するために、防災知識の向上を目指し知識付けを行った。具体的には、子ども目線の震災体験の本を読み心に残った部分や重要で伝えたいと思った部分を抜粋しまとめた。またそれぞれ役割分担を行い、阪神淡路大震災について、その他の災害について、危機管理、災害時の心理状況などについて調べ自分たちの知識向上の教材としてまとめた。

防災教室や学生セミナーの受け入れ先については、担当委員の紹介や団体メンバーの繋がりから受け入れを依頼した。

幼稚園児、保育士を目指す学生など、今まで防災に関心がなかった人に興味を持ってもらうため、受けて側の好きなもの・興味があるものと防災を繋げたプランを考えた。例えば、幼稚園児だと紙芝居、歌、ダンス、クイズなどと防災、保育士を目指す学生だと幼児教材と防災である。何を伝えたいかを考えると同時に、どうすれば伝わるか、伝える方法を考えることを優先した。保育士を目指す学生、保育士さん、幼稚園児とその家族、高校生など、できるだけ多くの人に自然に関わってもらうようなプランを考えた。

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 準備活動で 苦労した点 工夫した点

#### ●苦労した点

- ・メンバーが集まらなかったこと
- ・保育士をめざす学生とコンタクトを取るために苦労した
- ・保育士を目指す学生との学生セミナーや防災教室を受け入れてくれる幼稚園の数を増やすことが困難だった
- ・防災教材を作成する中で、園児にどれぐらいのことが伝わるのか、理解してくれるのかがわからなかった
- ・どのように園児をまとめ、防災教室に興味を持ってもらうかがわからなかった

#### ●工夫した点

- ・メールリストを利用してミーティング内容や活動報告を行い、全員で情報を共有した
- ・保育士を目指す学生に対して、防災は特別なものではなくみんなもやっているということ、防災を全面に出さず学生が興味のあることから導入として伝えた
- ・多くの人々に私たちの団体について知ってもらうことが必要であると感じ、活動報告を行った
- ・実践させていただく幼稚園や交流できた学生は少なかったが、その分深い交流ができた。今後の活動でも協力してもらえる関係を築くことができた。
- ・園児や保育現場の雰囲気を知るため、実施する幼稚園へ事前訪問を行って園児と触れ合う時間を設けてもらった
- ・園児と過ごす中で災害や防災について聞き、先生との打ち合わせ時に日ごろ行っている防災行事や園児の意識について話を聞いて調査した
- ・幼稚園訪問時に、先生がどのように園児を静かにさせているか、どのような言葉を園児が好むかなどを研究し、実践に役立てた
- ・防災教室で使用する教材チェックを先生方にしていただくことで、より園児が理解しやすいものに仕上がるようにした

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 実践に 当たって 苦労した点 工夫した点

#### ●苦労した点

- ・幼稚園は平日に運営されているが、団体メンバーは平日には学校があるので、防災教室実施にあたり、人数の確保が難しかった。1回目の防災教室は7人が参加したが、2回目の防災教室には4人しか参加できず、その人数で同じプログラムを実施した
- ・歌やダンスや手遊びなど、同じ事を繰り返すことで、園児が飽きてしまった点
- ・クイズなど、全員参加するプログラムでは、園児みんなに答えてもらうことはできず、園児から不満が出てしまった点
- ・普段、幼稚園で園児と遊ぶのと防災教室を実施するのとでは全く雰囲気も違い、プログラムの進行がなかなかスムーズにいかなかった
- ・防災に関わりがなかった学生に、どのようなことを伝えればいいのかがわからなかった。また、どのようにすれば防災に興味を持ってもらえるのか悩んだ

#### ●工夫した点

- ・各自で時間調整を行い、授業がない時間を利用して防災教室を実施した
- ・1回目の防災教室と2回目の防災教室で参加者が約半分に減ってしまったが、限られた人数の中で役割分担をして実施した。2回目の防災教室参加メンバーは、全員1回目の防災教室に参加していたこともあり、前回よりも要領を掴めていたように思う。そのため、少ない人数でも実施することが可能であった
- ・園児が飽きてしまった場合は、反応を見ながらそのプログラムの長さを調節するように心がけた
- ・年長組2クラスのうち、1クラスずつ防災教室を実施するので、1クラス目で反応が悪かった場合、2クラス目では言い方ややり方を変えるなどの工夫をした
- ・保育士を目指す学生の意見を取り入れた教材を利用し、園児に受け入れてもらいやすいものにした
- ・幼稚園での防災教室実施後、毎回先生方との反省会を設けていただき、良かった点、改善点などを指摘していただいた。その内容を団体で共有し、次回プログラムを実施する際に改善できるようにした
- ・どうしたら相手に興味を持ってもらえるのかを一番に考えて防災教室、学生セミナーのプログラムを考えた。相手が好きなものや興味があるものと防災を結びつけて紹介した。園児だったら紙芝居と防災、学生だったら幼児教材と防災である。相手の興味があるものに防災を取り入れることで、より身近に感じてもらえるように工夫した。
- ・学生には、自己紹介ゲームや伝言ゲーム、クロスロードなどのゲームを用いて、楽しく防災を学んでもらう工夫をした。また、防災教材の紹介、教材作成、意見交換なども行い、防災と保育の知識を共有できる場を設けた
- ・私たち自身が楽しんで実施することを心がけた

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兵庫県立舞子高等学校</li> <li>・園田学園付属学が丘幼稚園</li> <li>・頌栄短期大学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災メモリアル行事の分科会ブース担当</li> <li>・防災教室実施</li> <li>・保育士を目指す学生を対象としたセミナー開催</li> </ul>
保護者・ PTAの組織		
地域組織		
国・地方公共団体・ 公共施設		
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	ひまわりの夢企画	防災楽習迷路の図案提供
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

#### 成果として 得たこと

幼稚園での防災教室は二回実施することが出来たことで、園児に地震時の身体の守り方を覚えてもらうことができた。教材の内容やプログラムの内容については幼児向け防災教材作成の留意点分った。子どもの目線になっての教材制作をすることの難しさを学んだ。教材を作り始めた当初、幼稚園児を対象にしていたので、地震の被害の絵や表現を過激にしないように意識していたが、園児の心に残るものにするには、ダイレクトな表現の方が伝わりやすいのだと知った。園児のまとめ方や、プログラムを進める中での注意点、絵ははっきりした色使いの方がいいなど、プログラムの改善点や防災教室での反省点などを保育士の先生からご指導いただいた。それにより、次の防災教材ではご指摘いただいたことを参考に製作することができた。また、先生にアドバイスいただいたことは保育士を目指す学生にも発信することで、現場での保育、防災教室のアドバイスへと繋げることができたように思う。幼稚園訪問や防災教室を通して幼児の反応をみることで、園児との接し方、プログラムの流れを止めては集中力が途切れてしまうことなど防災教室のノウハウを知るきっかけとなった。今までに学んだことをこれからの教材づくりにも活かしていきたい。

保育士を目指す学生に行った学生セミナーで園児に対しての防災教材について共に意見を交換し考えられたことである。保育士を目指す学生との情報交換、意見交換を行い今の保育教材と防災教材と組み合わせることが出来た。保育士を目指す学生も積極的に参加してくれ、防災に興味を持ってくれた学生もいた。今まで防災に関心がなかった人が、防災にふれる良い機会になったと思う。共同して防災教材を考えたことで、学生が将来保育士になった際にも手遊びなどを活用してもらえると感じる。他の団体と共同で活動したことにより、防災の幅も広がりあらゆる方向から棒指しを見ることが可能になった。また、セミナー後も教材を作成してくれた人もおり、防災知識と保育の知識を共に共有することが出来た。今後、活動に参加したいと意欲を見せてくれた学生がいたことは大きな成果であると感じている。今回、防災を通してできた関係を大切にしていきたい。

また、幼稚園での防災教室活動や団体の活動報告を教育機関で行ったことで、新聞やテレビなどのメディアを通して地球防災隊の活動を多くの人に知ってもらうことができた。それが反響を呼び、新たな場所での防災教室実施に繋がりがつつある。このように、地道に活動を続けていきたい。

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 全体の反省・ 感想・課題

防災教室では、子どもたちにとって私たちの発言はとても影響力が大きいことを知った。防災教室を実施する上で、発する言葉の重要性を感じ、正しい知識を伝えるためにさらに防災知識の学習が必要であることを感じた。子どもたちに知ってほしいことはたくさんあったが、災害を地震に限定したことで、伝えられたことが少なかったのではないかと感じる。しかし、テーマを絞ったことで、園児たちも受け入れやすかったとも感じる。

普段から幼稚園訪問を実施して園児と交流することもでき、その結果、防災教室がやりやすい環境をつくることもできた。先生方のバックアップがあったからこそ、防災教室の実施を実現することができたと感じている。また、作成した教材を実際に使ってみると、多くの課題が見えてきた。反省を活かし、紙芝居では絵の構成ははっきりとした色合いにし、わかりやすく見せることが出来た。課題や修正案は多数でたので、これからはその改善に努め、実践へと繋げていきたい。

私たちの活動は神戸を中心として行ってきたが、これからどのように広げていくかが課題である。私たちは、今回のチャレンジの目的であった“担い手作り”が十分にできなかった。現段階では、私たちが考えた防災教室プランを実施するには、私たち自身が園に出向く必要がある。これでは、活動の幅が限られてしまう。防災教室のプログラム考えながら教材作成を行ってきたが、これからは、先生1人で使える端的な防災教材を作成することが必要なのだと感じた。この1年で、私たちの活動に興味を持ってくださった保育士の先生や学生に多く出会うことができた。また、今までの活動の報告により、このような子ども目線での教材作成に興味を持ってくれたところが出てきている。この繋がりを大切にしながら、今後も保育士を目指す学生との意見交換や情報交換をしていきたいと考えている。

私たちはこの1年、多くの人に支えられながら活動を実践することができた。幼稚園の園長先生、先生方、園児のみんな、保育士を目指す学生など多くの出会いがあった。新たな出会いを通し、私たちも保育という新たな分野に踏み込むきっかけとなり、また今まで関わりがなかった人には防災という新たな分野に触れるきっかけとなったように感じる。この1年、“楽しく防災をすること”を私たちの活動のテーマの一つとして活動をしてきた。実践する私たちが楽しまなければ、受け手側は楽しんでもくれない、防災に興味がない人に目を向けてもらうには、まず楽しいところからスタートさせることが大切なのだということを学んだ。これからも楽しく防災を続け、広める活動をしていきたい。

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 今後の 継続予定

新たなメンバーを迎える予定である。また、今まで防災教室を実践してきた幼稚園と今後も関係もち、来年度も継続して防災教室を実施していくことが決まっている。幼稚園訪問も定期的に行っていく予定である。今までは一つの幼稚園で防災教室を実施してきたが、今後は新たな幼稚園にもコンタクトを取り、防災教室の活動の幅を広げていきたいと考えている。また、学生セミナーに参加してくれた学生とも交流を続けていく予定である。セミナーとは別に教材作成する日を設けて、意見交換や教材作成ができたらと考えている。学生を保育士になった後に、使える持続的な防災教材作成を目指す。

防災教室で使用した教材については、当日の園児の反応や先生方から指摘いただいた点を見直し改訂していく。また、私たちの失敗やそれに対しての先生方からいただいたアドバイスを冊子にまとめ、これから幼児教材を作成する学生に配布できたらと考えている。

持続可能な防災教育、防災教材の作成として、今まで実践してきた防災教室のプログラム構成や、楽譜・手遊びなどの教材のマニュアルや冊子を作成する予定である。今回製作した紙芝居は、『ちゅーたとふしぎなメロンパン』を紙芝居として製本し、もう一つの『こめたろう』は絵本として製本することが決まっている。防災教室のマニュアルと合わせて配布し、私たちが園に行かなくても防災に触れてもらう一つのきっかけとして活用してもらいたいと考えている。

# 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 7. 自由記述欄 ①

第一回防災教室

歌の歌詞

「ぐらぐらおおじしん」

ぐらぐら 大変だ

ぐらぐら 地震だよ

ぐらぐら どうしよう

さあ みんなで変身だ

あたまに 手のをせて

みんなで まるくなろう みんなで変身だ ほらダンゴムシ



紙芝居



クイズ



●第二回防災教室 手遊び

ちゅーたが一匹おりました

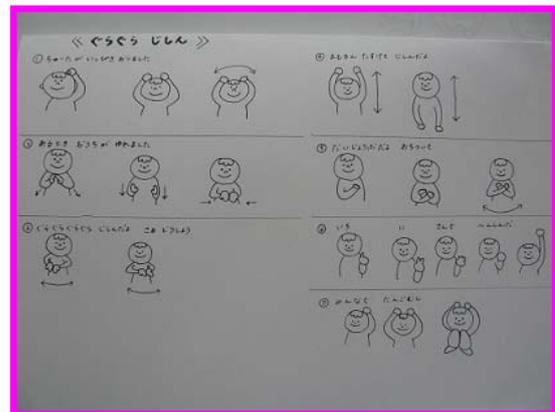
あるときお家が ゆれました

ぐらぐらぐらぐら じしんだよ さあ どうしよう

まもるんたすけて 地震だよ

大丈夫だよ おちついて

1 2 3 で変身だ みんなでダンゴムシ



●紙人形(ちゅーた・こめたろう・まもるん)



# 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 7. 自由記述欄 ②

紙芝居



学生セミナー



伝言ゲーム



クロスロード



手遊び



教材 : くるくるシアター 表



くるくるシアター 裏



## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

※ 防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。

防災教育内容や教材がワンパターンになりがちであるため防災教育を受けた側が興味をひくような内容やプログラムにしなければならないと思う。そのためにはその年代にあった防災教材をつくり、その年代が興味のあるものと合わせてみたり、学びたいものを合わせてみるなどの工夫が必要となってくると思う。しかしその意識には個人や地域で違いがあると思うので、年代ごとに防災についての意識調査や知識の有無を調べ併せて一番興味のあることがらを調査できれば基礎データとして今後の防災教材作成やプログラムづくりに役にたつのではないかと思う。調査方法は実地調査やアンケート調査となると思うがそれらは生の声を聞いて繁栄させることができるよい方法であると思う。

今まで私たちは、防災セミナーや学校での授業の一環として防災教育を実施してきた。防災に興味がある人、防災を学ばなければいけない人を対象に活動をしてきたのである。聞いてもらえて当たり前、興味を持ってもらえて当たり前、そんな環境の中活動してきた。

しかし、今回幼稚園児や保育士を目指す学生を対象とした防災教育を行うことは、今までとは環境が大きく変わった。まず、防災教育を実施する対象となる人々は、防災に興味がないということであった。記憶に残るものにしなければ、もう一度参加したいと思ってもらえるものにしなければ、1回きりで終わってしまう可能性があった。今までは、自分の伝えたいことを伝える活動であったが、今度はいかに興味を持ってもらうかを最優先して考えた。その結果、相手が好きなものや興味があるものと防災を結びつけるということになった。園児なら、紙芝居・歌・ダンス・クイズなど、保育士を目指す学生なら幼児教材である。防災を主役にするのではなく、相手が好きなものを主役として考えた。そこにどうにか防災の要素を取り入れる。防災に興味がない人に、防災のノウハウや必要性を訴えても、耳を塞いでしまいます人がほとんどかもしれない。最初のステップは、防災と日常を繋げて少しでも身近に感じてもらうこと。ゲームなどを盛り込んで楽しんでもらうことなのだと感じた。そうすることで、興味が出てきて、防災のノウハウや過去の災害についての話にも耳を傾けてくれるようになるかもしれないと感じた。

防災をしている人間にとっては、防災は主役。しかし、防災に興味がない人にとっては、防災は脇役でなければならない。いかに、防災に興味がない人を引きつける主役を見つけるか、その主役と防災をマッチさせるか。伝えたいことだけを考えるよりも、伝わる方法を考えること。伝わる方法を考えるよりも、興味を持ってもらえる方法を考えること。小さなことを積み重ねていくことで、防災を主役に考える人が増えていくのかもしれないと感じた。興味を持つ、楽しむ、防災のノウハウを学ぶ、一つずつ、少しずつステップしてもらおうという意味でも、防災は継続することが重要なのだと感じた。